



千葉集中観測キャンペーン(Chiba Campaign 2021)の実施について

4年ぶりという異例の開催となった東京オリンピック2020と同期して、7月26日から8月8日に、入江研究室が主導で千葉大学西千葉キャンパスをベースとして千葉集中観測キャンペーン(Chiba Campaign 2021)を実施しました。この集中観測キャンペーンは今年で8年目を迎えました。これまで、プロジェクト等によらない枠組みで、基本、入江研究室ベースで実施するという小規模な集中観測として実施して参りました。その発想の原点は、参加者全員で短期間に焦点を当て、国際観測網であるSKYNETやA-SKYなどの地上観測や衛星のデータを解析し、特に学生の研究に役立てられたらと考えたことです。このことに加えて、参加研究者や学生の交流を促進しつつ、自由な発想で新しい試みをする場としても活用し、その結果として大規模プロジェクトの立ち上げにつながればという狙いもあります。研究目的、初期結果、また、学生が主導で進めてくれた初の試みとして撮影した「5方位の全観測期間中タイムラプス動画(夜間は除く)」は以下のサイトから閲覧可能ですので、興味があれば是非ご覧ください。

Chiba Campaign 2021:

<http://atmos3.cr.chiba-u.jp/iriellab/ChibaCampaign2021/>

千葉キャンペーン2021期間中のイベント

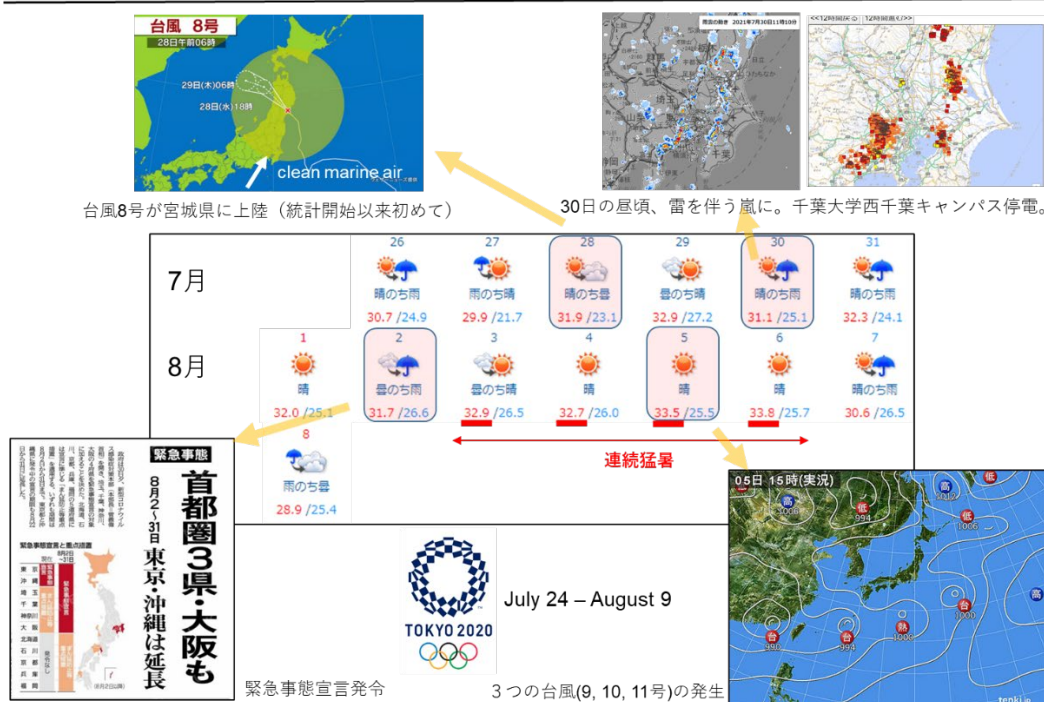


図1 千葉集中観測キャンペーン(Chiba Campaign 2021)の期間中(7月26日~8月8日)に起きたイベント

図1に千葉集中観測キャンペーン期間中のイベントをまとめてみました。いろいろありました。7月28日には、台風8号が統計開始以来、初めて宮城県に上陸しました。これに伴い、千葉では南西の風が卓越し、清浄な海洋からの空気が移流し、オゾンやPM_{2.5}の濃度が非常に低下しました。7月30日には、黒い雲が北東から近づき、10時半頃から突然嵐に。11時半ごろには千葉大周辺で次々と大きな落雷があり、11時35分には西千葉キャンパスが停電。正午には停電から回復し、観測装置やサーバーなどへのダメージも無く、ホッとしたのを覚えています。8月2日には千葉県を含む首都圏3県と大阪府に緊急事態宣言が発令されました。その後、8月3日から4日間の連続猛暑。5日には、9,10,11号の3つの台風が日本の南の海上に存在するという珍しい天気図となりました。この翌週には、天気がぐずついて異例の梅雨の再来。その後は厳しい残暑を迎えた、そんな東京オリンピック・パラリンピックが開催された8月でした。

こういった集中観測がなければ、このような盛り沢山のイベントをまとめる記事を書くこともなく、記憶も断片的になってしまったかと思うと、改めて、地球環境変動研究において現場での観測（リモートセンシングを含む）が如何に重要なのかを再認識することができました。また近いうちに集中観測を実施したいと考えておりますので、興味のある方がいらっしゃいましたら、入江研究室メンバーに気軽にお声がけください。お待ちしております。

(入江仁士)

■■ 退職のご挨拶（小槻研究室：樺山修） ■■

～ 小槻研究室通信・第9号 ～

このたび、小槻研究室を退職し、カナダ留学に戻ることになりました、樺山です。2020年5月に小槻研究室に参加し、3か月ほどかけて、研究室の新人の入門書として使われることになるマニュアルを作成・改良。内容は、pythonというコンピューター言語を研究室のテーマである地球環境学に沿って学習するというものです。その後、2020年10月から2021年8月まで「数理感染モデルによるCOVID-19の感染力推定と衛星NO₂観測による経済活動推定との関連分析」というテーマで研究に取り組みました。

昨年2020年3月に新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりカナダの大学から帰国推奨になり、帰国していました。その後、オンライン授業を受けていたが、これでは勉強にならないと思い、思い切って働くことに。幸運なことに千葉大学で研究の業務に従事できたことは、この先研究の道を進むうえで、とても貴重な経験になりました。とても気持ちよく仕事に打ち込める職場で毎日仕事を楽しくできました。まだコロナ収束とは言い難いですが、カナダの大学では対面授業を始めることになりましたので、小槻研究室は退職して、カナダ留学に戻ります。全力で勉強に励み、将来は勉強させてもらった恩を日本とカナダ両方に還元できるような仕事をしたいと思っています。

(樺山修)

1年4ヶ月に渡り、技術補佐員として研究室の活動に貢献して頂きました。作成・改良頂いたpythonマニュアルは、これからも研究室の新規加入メンバーの強力な翼になる筈です。また折に触れてカナダの大学事情などもお話しいただき、研究室の学生にとっても国外大学について見識を広める、貴重な機会になったと思っています。これから研究者を目指していくということで、今後の更なる飛躍を祈念します。



(小槻峻司)

2021年8月19日工学系総合研究棟にて